

漱石

天理ギャラリー第一六一回展

生誕百五十年を記念して



6/3 ⊕ 14:00

東京天理ビル 9階

ロバート キャンベル氏 講演



ROBERT CAMPBELL
 国文学研究資料館長

「漱石先生の快樂と苦痛」



夏目漱石

Natsume Soseki
 元東京帝国大学文科大学講師
 作家



撮影および録音はご遠慮ください

本展ハ
 5月14日
 カラ
 6月11日
 迄デアル。

天理ギャラリー

- 9時30分～17時30分
- 観覧無料
- 会期中無休
- 閉館の30分前迄にご入館下さい

- 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-9 東京天理ビル9階
- Tel. 03-3292-7025
- アクセス
 JR・東京メトロ 神田駅より西へ約600m
 東京メトロ 新御茶ノ水駅 B7出口より南へ約300m
 東京メトロ 淡路町駅・都営地下鉄 小川町駅より南西へ約500m
- 展覧会案内 <http://www.tcl.gr.jp/>
 天理図書館ホームページ → 展覧会



漱石山房

慶応三年（一八六七）、江戸に生まれた夏目漱石は、今年（二〇一七）で生誕一五〇年を迎えます。英語教師となり、英国留学を経て『吾輩は猫である』で作家としてデビューし、明治四〇年には大学教員の職を辞して朝日新聞社に入社すると、職業作家として本格的な創作活動を開始します。作家としての活動は、わずか十年あまりの短い間でしたが、多くの秀作を世に残しました。

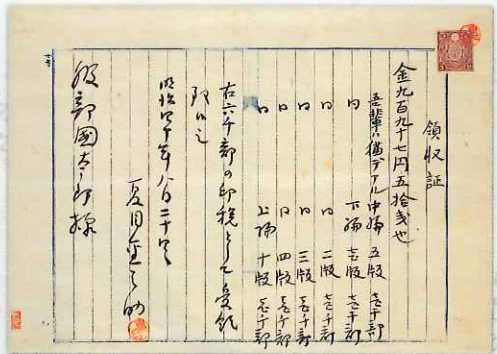
第一六一回展として、彼の生誕を祝し、天理図書館が所蔵する漱石資料の展示を企画しました。

展示構成は、生涯に沿って大きく学生時代・教師時代・作家時代に、芸術作品を加えた四つから成ります。



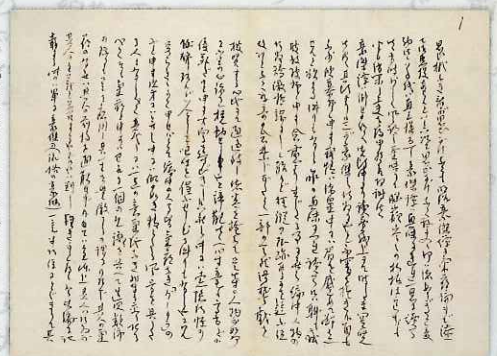
文豪というと、遠い存在のように感じられますが、自筆原稿のみならず、書簡や初版本、あるいは書画作品を通して、暖かみのある身近な存在に感じてください。

「吾輩は猫である」印税領収証



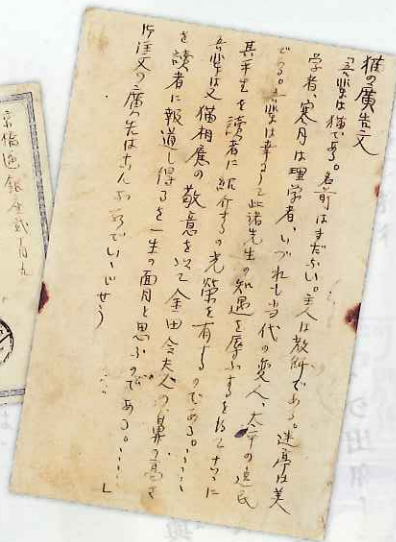
服部国太郎宛 明治40年8月24日付

現存中最長の漱石書簡



子規宛書簡 明治24年11月7日付

漱石自らが自作の宣傳文を作成



芸者さんへの贈り物



猫の広告文

樹木と岩図

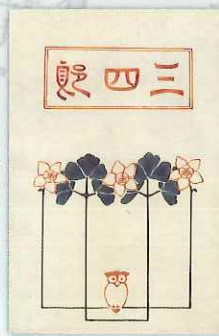
主な出品

- ◆ 『三四郎』
- ◆ 『硝子戸の中』
- ◆ 『私の個人主義』
- ◆ 『道草』草稿断簡
- 『咄哉帖』
- 『びんに櫛』短冊

ほか



橋口五葉『三四郎』表紙原画



『三四郎』自筆原稿

新聞長編連載第三弾